

Waimakariri-Harman Pass Route

概要

アーサーズ・パス・ナショナルパーク Arthers Pass National Parkの代表的なルート。同地方でも比較的難しく、上級者に人気がある。ほとんどの部分がなんの目印もなく、基本的に地形図を頼りに歩いていく。途中ふたつのアルパイン・クロッシングを含む。ジュリア・ハット Julia Hut の近くに入浴可能な天然温泉が湧いている。多様なサイドトリップもアレンジでき、遊びがいがある。ルートのほとんどは川沿いなので、トランピング中は常時靴が濡れた状態になる。

日程 & ハット

通常は4泊5日で歩けるが、川の渡渉が多く、増水時には停泊を余儀なくされる。ハットはCarrington Hut、Julia Hut、Seven Miles Hut、Carroll Hut を利用するのが一般的。他にもルート上にAnti Crow Hut、Mid Tipo Hut、Dillions Hutがある。なお地形図に記載されているGreenlaw Hutは現在はなくなっている。

Anti Crow Hut (6 banks): カテゴリー3。あまり利用されないらしく汚い。水道なし。

Carrington Hut (36 banks): カテゴリー2。大きくて快適なハット。無線機あり。

Julia Hut (6 banks): カテゴリー3。比較的新しい。近くにOld Julia Hutが残っていてそちらは無料で泊まれるがマットレスなし。歴史の遺物というかんじで汚い。

Mid Tipo Hut (6 banks): カテゴリー3。Julia Hutから2時間半ほど先にあるハット。

Seven Miles Hut (6 banks): カテゴリー4、無料。ベッドはあるがマットレスなし。お世辞にも快適とはいえない。水は離れた川まで汲みにいく。ふつうのハットのつもりで行くと愕然とする。

Dillions Hut (6 banks): カテゴリー4。Seven Miles Hutのクリークをはさんで対岸にある。僕には見つけられなかった。汚さはどっちもどっちという話。

Carroll Hut (8 banks): カテゴリー3。Kelly Saddleの近くにありロケーションがいい。貯水タンクがなく、すぐ横を流れる沢水を使う。Kelly Shelterのトラックエンドまでは2時間弱なので、ここに泊まる必然性はあまりない。

地形図

地形図はトポマップ Topomap 260-K33 (Otira) 1枚ですべてをカバーする。実際の地図を見てもらうとわかるけど、Harman PassやKelly Rangeのあたりはルートを示す破線すら描かれていない。パークマップ ParkmapのArthur's Passには大雑把ながらルートがすべて載っている。もっともラインが太く、等高線も甘いので地形図としての実力は劣る。

ベースになる町

アースパス・ビレッジ Arther's Pass Village が最寄の町。ユースホステルとバックパッカーズ、DOC ビジターセンター、カフェ、レストラン、ゼネラルストアがある。手に入る食料品は限られる。マギーのインスタントヌードルが\$1もした。ホワイトガソリンは売っていたが、ガス・カートリッジは見かけなかった。ユースとバックパッカーズどちらもテントサイトがあるが、トランピング目的でいくなら Mountain House Backpackers (03-318-9258) がおすすめ。マネージャーが山に詳しく、夜などゆっくり相談にのってもらえる。彼は土日にはDOC オフィスで働いていて、なにかと頼りになる。

また集落のまんなかにパブリックシェルター Public Shelter があり、\$3 でその周辺にテントを張れる。シェルターは扉のしまる広いホールのような感じで、テーブルとイス、電灯と水道がある。原則としてシェルター内で寝ることは禁止されている。

アクセス

僕はクロンダイキ・シェルター・トラックエンド Klondyke Shelter Track End からスタートした。ビレッジから SH73 (国道73号線) を8キロほどクライストチャーチ Christchurch 方面へ戻った広い川幅のワイマカリリ・リバー Waimakariri River の右岸にある。シャトルバスなどでドロップオフしてくれるが、距離のわりには高い料金を請求される(\$15くらい)。ヒッチでもいいが、2時間くらいなので歩いたほうが早いかもしれない。

もう一方のケリー・シェルター・トラックエンド Kelly Shelter Track End は、同じく SH73 ぞいで、アースパス・パス・ビレッジから20キロ弱、峠の向こう側になる。ビレッジに戻るには、ヒッチかバスを捕まえることになる。バスは Greymouth - Christchurch 間で複数社が運行しているので、1日何回かのチャンスがある。ヒッチもそれほど好条件とはいえないが、雨が降ってない日中なら問題ないだろう。最悪の場合3キロ歩けばオティラ Otira の集落があり、ゼネラルストアや宿(ホテルのバックパッカーズユニット)がある。

温泉について

通常の日程で歩くと2泊目にあたるジュリア・ハット Julia Hut の近くのタイポ・リバー Taipo River 沿いに温泉がわいている。ハットから15分ほどの川ふちで、水際ギリギリなのですこしでも増水したらすぐ水没してしまう。基本的に手掘りで、好天が続いた後なら誰かが掘ったプールが残っているかも知れない。近くにさびたシャベルが転がっている。岩場なのであまり深く掘ることはできず、寝そべってなんとか全身が浸かる程度。温泉は硫黄を含む透明な湯で、触れないくらいに熱い。地面と岩の割れ目からすこしずつ染み出している。川から冷水の引き込んで適温に調整する。湯に浸かって空を眺めていると気分がいい。景色は清楚で美しい。熱くなったら川に飛び込んで、また湯に戻るということを繰り返していると、すぐに何時間もたってしまう。

サイドトリップ

このルートは実に多彩なアレンジが可能だ。一般的なサイド・トリップをふたつだけ紹介する。いずれも1泊目のカーリントン・ハット Carrington Hut からスタートする。

[White River to Barker Hut]

カーリントン・ハット Carrington Hutからホワイト・リバー White Riverをさかのぼっていったどんづまりにバーカー・ハット Barker Hutがある。下から見上げると岩山のでっぺんに建つ仙人の住処のよう。まわりにはたくさんの氷河があり、ごく間近に見られる。ハットのロケーションは最高によく、ここに泊まるのを目的に行ってもいいくらい。ただしそこまでルートはかなりラフで険しい。ルートファインディングができないとハットにつくこと自体むずかしい。僕は空身で行って往路に4時間かかった。全装備を担いで行った人は7時間かかったそうだ。ハット直前の最後のセクションは岩登りに近く、荷物が不安定だと危険かもしれない。ハットはクライストチャーチ・マウンテナリング・クラブのプライベート・ハットで、一般に開放されている。ベッド(6人)+マットレス、トイレ、雨水タンク、無線設備、蛍光灯がついている。

[Waimakariri falls]

こっちのほうへは足をのばしていないのだが、この滝を見るのを目的で来る人も多い。ちかくに山小屋もあり、ここをベースにこの地方の最高峰Mt. Rolleston(2271m)に登ることも可能(登攀登山の完全装備が必要)。またWaimakariri Colを越えてOtiraの集落へ抜けることもできる。

トラック・ダイジェスト

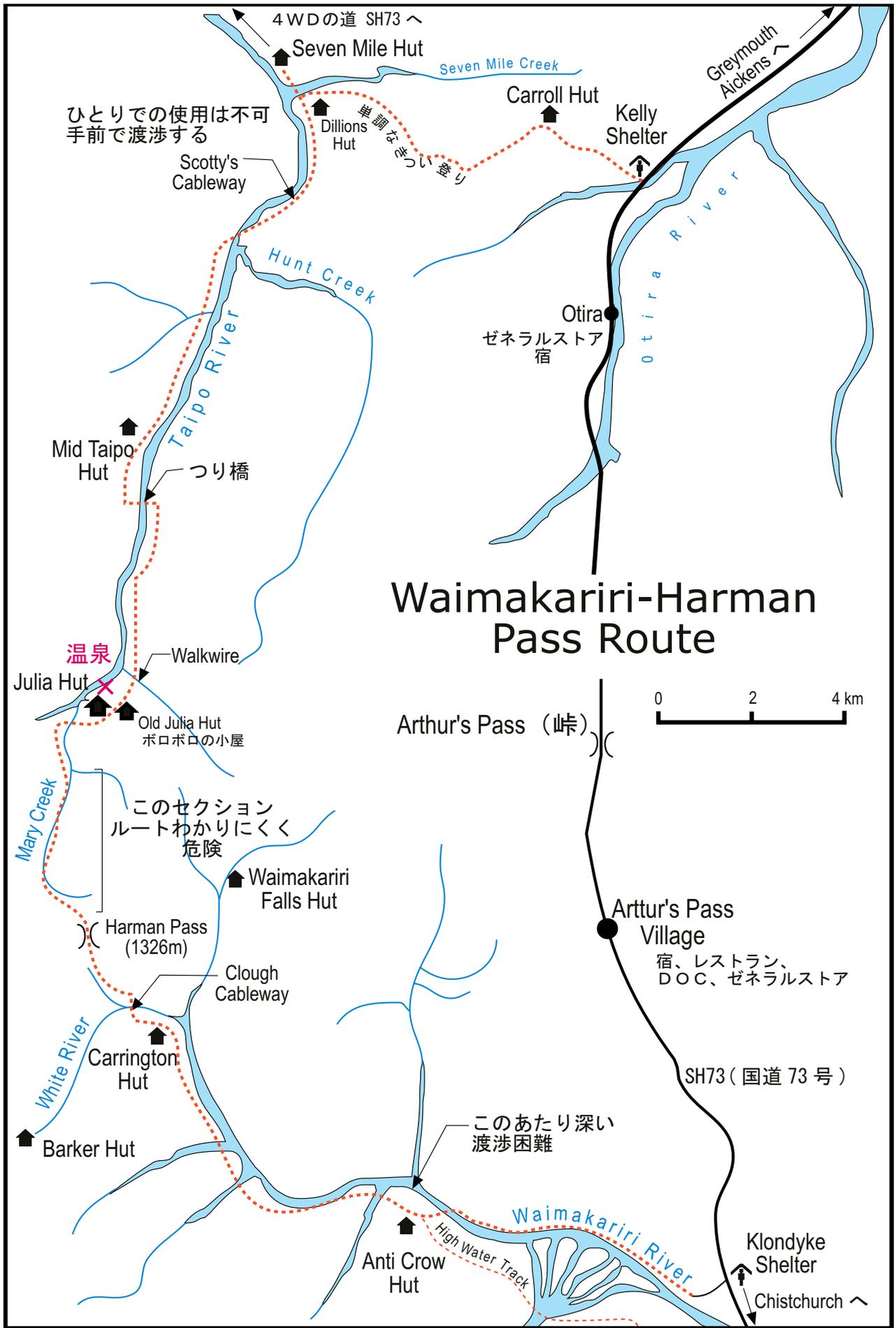
1日目 Klondyke Shelter - Carrington Hut 5時間半

ワイマカリリ・リバー Waimakariri Riverにかかる橋のたもとからスタートする。ここでふたつの選択がある。もし川の水量が少ないなら右岸のクロンダイキ・シェルター Klondyke Shelterから上流に向かって右側の河原を歩いていく。適当なところで対岸に渡って上流を目指す。水量、場所にもよるが膝くらいの深さ。

雨の後などで川の渡渉が難しそうなら橋を渡って左岸のWet-Weather Trackをいく。このルートはリバーベッドのやや上方のブッシュに作られたトラックで、歩く人は少なく、荒れているところもある。ここをずっと歩きつづけるのは根性があると思う。途中からリバーベッドに下りられるところがたくさんあるから、川を渡る水位に自信がなければ、とりあえずこっちからスタートしてもいいかもしれない。

ここでは低水量の通常ルートに従って書いていく。クロンダイキ・シェルターからつづく未舗装道路を行き、突きあたりから川床を歩いていく。川幅が広くどこが川筋なのかわからないかもしれないが、とありあえず右岸に沿って歩いていく。やがて対岸にJordan Streamから広がるこんもりと盛り上がった三角州のターキー・フラット Turkey Flatが確認できると思う。それを通り過ぎたあたりからすこしずつ左岸へ近づいていくといい。僕はアンチ・クロウ・ハット Anti Crow Hutのところで完全に左岸へ渡った。ふつうのコンディションであれば、ほとんどの場所で問題なく渡ることができるが、Crow Riverの合流付近は水量・水深もあるらしいので注意。

その後は左岸のリバーベッドをひたすら上っていけばいい。途中深みで通行不能なところもあるが、探せばすぐに巻き道が見つかる。カーリントン・ハット Carrington Hutは川



Waimakariri-Harman Pass Route

Arthur's Pass (峠)



Arthur's Pass Village
宿、レストラン、DOC、ゼネラルストア

SH73 (国道 73 号)

Klondyke Shelter
Chistchurch へ

ひとりでの使用は不可
手前で渡渉する

単調なまっ
っすり

温泉

このセクション
ルートわかりにくく
危険

このあたり深い
渡渉困難

4WDの道 SH73 へ

Greymouth
Aickens へ

Otira
ゼネラルストア
宿

Scotty's
Cableway

Mid Taipo
Hut

つり橋

Walkwire

Old Julia Hut
ボロボロの小屋

Waimakariri
Falls Hut

Harman Pass
(1326m)

Clough
Cableway

Carrington
Hut

Barker Hut

Anti Crow
Hut

High Water Track

のやや左内陸にあり、そこへの分岐から白い目印のポールが続いている。

2日目 Carrington Hut - Julia Hut 7時間

よく整備されたがトラック森の中をホワイト・リバー White Riverへ続いている。リバーベッドへ出てからはところどころにケルンとマーカーがあり、ケーブルウェイ Clough Cablewayへ続く。ケーブルウェイというのは、川を渡るための滑車のような乗り物だ。一人乗りのかごの中と両岸に手回しのハンドルがあり、それをまわして移動する、真中まではたるみで簡単に行けるが、そのあとののぼりがきつい。ストッパーがあるわけではないので、手を離そうものなら真中まで引き戻されてしまう。かつてドイツ人がワイヤーを掴んでおさえようとして指を落としたという話を聞いている。一人の力で渡りきるのは難しい。

ふつうのコンディションなら川の渡渉も不可能ではないので、ひとりなら素直に川を渡ったほうがいい。ケーブルウェイの70メートルほど下流が渡渉ポイントだ。もし不可能なら、ハットで水が引くのを待ったほうがいい。

ケーブルウェイを下りたところからTaipoiti Riverに向けて短いトラックが延びている。しかしそれを使うよりはいったん河原へ下りてからTaipoiti Riverをさかのぼったほうが楽だ。ところどころにケルンのマーカーがある。

その先地形図にルートが記されていないが、最初は右岸を登っていけばいい。川のやや上方のガレ場に踏み分け道ができています。岩壁によって行く手が阻まれたら対岸にわたる。それを繰り返して上流へのぼっていく。洪水の後でなければクロスポイントにケルンの目印があるはずだ。

川筋を外れてハーマン・パス Harman Pass (峠) へ向かうポイントはケルンが示している。Taipoiti Riverは上流で二又に分かれているが、上流に向かって右側が本流で、左の流れは岩の隙間から流れ落ちる滝のような形で流れ込んでいる。その滝のすこし先の棚をのぼっていく。地形的にどうみてもそこしか登れないので、すぐに分かる。

棚に登りきるとタソック帯が広がっていて、いくつかのケルンとうっすらとした踏み跡がハーマン・パスへ続いている。左手の谷下に流れる川は、上流の方で渡ることになる。

ハーマン・パス Harman Passにはひととき大きなケルンと白いポールが立っている。左手のアリエルス・ターン Arieles Tarns (水溜り・池)のまわりにいくつかのテントを張った跡があった。ルートはターンとは反対の右手に行く。このあたりは踏み跡もケルンもないので分かりにくい。眼下にこれから行くマリー・クリーク Mary Creekのほぼ前景が見えるので大まかなルートどりを考えて歩を進める。本当に下りていいのかと考えてしまうほどの急な下りでマーキングもない。枯れ沢のような谷の部分にそって下りて行くと、やがて斜面の中間くらいに白いポールが立っているのが確認できる。間隔は広いがその後クリークに下りるまでに数本のポールが立っている。

マリー・クリーク Mary Creekの右岸について、すぐに向こう岸へ渡るポイントがあり、そこからすこし上の台地に向けてタソックの中の踏み分け道が続いている。しかし背の高いタソックで途中で道を見失ってしまった。やむなくふたたびリバーベッドに戻って下っていった。クリークがおおきく右にカーブするあたりからはずっと右岸を歩いた。途中行く手を阻まれるということにはなかった。地形図にあるように途中から左岸にトラックが始まるの

で、そのやや手前から渡っておいたほうがいい。トラックの始まる直前あたりは水量が多くて、渡渉困難と思われる。

トラックに入ってしまうと、格段に歩きやすくなる。はっきりとトラックと分かるので気持ち的にも安心する。急な上りと下りをすぎると、まもなくジュリア・ハット Julia Hut に着く。

3日目 Julia Hut - Seven Miles Hut 6時間

はっきりとした森の中のトラックが続いていく。ジュリア・ハットから30分弱でウォーク・ワイヤー Walk Wireを渡る。ウォーク・ワイヤーというのは川に3本のワイヤーを張った簡易つり橋で、綱渡りのようにして渡っていく。

さらに森の中のトラックを歩く。こんどはちゃんとしたつり橋があり、タイポ・リバー Taipo Riverを渡る。ミッド・タイポ・ハット Mid Tipu Hutはもうすぐだ。ウォーク・ワイヤーから2時間弱。草原の中のこじんまりとしたハットで悪くはない。泊まる予定のセブン・マイル・ハット Seven Mile Hutには貯水タンクがなく、水を煮沸しなければならないので、できればここで多めに補給していくといい。

ハットのある草原を過ぎると再び河原を歩くが、20分ほどでゴルジュを巻く内陸のトラックへ入る。それを抜けると黄色い花が咲く広々とした草原が広がっていた。吹く風にいっせいに草がなびいていて美しい。

この先、スコッティーズ・ケーブルウェイ Scotty's Cablewayでタイポ・リバー Taipo Riverを対岸に渡ることになっているが、このケーブル・ウェイはかごの中にハンドルがついていないので、一人では使えない。

DOCのルート・ガイドによるとケーブル・ウェイを使わない渡渉ポイントはミッド・タイポ・ハットから1時間ほどのハンツ・クリーク Hunts Creek付近ということになっている。ぼくはそのクリークのやや手前の中州がある部分で渡ったが、奥のほうの流れは速く水量もありうねっていた。時間をかけてポイントを検討していちばん渡りやすそうな場所を選んだつもりだったが、すこし危険を感じた。このとき2週間以上雨が降っておらず、最大限に近いくらい水量が少ないときだったのだが、そんなかんじだった。この渡渉ポイントがベストだったのかは今でも疑問に感じている。

ハンツ・クリーク Hunts Creekとタイポ・リバー Taipo Riverの合流付近からバンク状に小さな台地が延びている。そこに踏み分け道があったから、それに沿って歩いたが、やがて小道は小さな崖に阻まれて行き止まりになった。やむなくすこし戻って堆積土砂で崩れやすい小さな崖を下りて、歩きにくい川の淵を歩いた。

崖を過ぎ、ふたたびフラットに入ったが背の低いトゲのある木の林で歩きにくい。途中からDOCのポール・マーカーが現われたが、間隔が開きすぎていてあまりあてにならない。

スコッティーズ・ケーブルウェイ Scotty's Cablewayのすこし手前にFlood Route(増水迂回路)の入り口があるが、コンディションに問題がなければ河原へ出て、ケーブル・ウェイの下を歩いていったほうがはやい。

次のフラットは一面のイラクサ畑で、ルートどりには苦労を要する。人が歩いた跡や4WDのあと、DOCのマーカーなどが所々にある。いっそうのこと川ギリギリのバンク下を歩

いたほうが楽だったかもしれない。

セブン・マイル・クリーク Seven Mile Creek はリバーベッドは広いが川幅は1メートル、深さも膝下くらい。渡ると、遠くにセブン・マイル・ハット Seven Mile Hut が見える。セブン・マイル・ハットはあまりにボロボロで汚い。マットレスもないので快適な睡眠にはキャンプ用ロールマットなどが必要。トイレも水道施設もない。水は15分ほど離れた川まで汲みに行く。

4日目 Seven Mile Hut - Carroll Hut 6時間

この日の行程は、ほとんどが急なぼりになる。ふたたびセブンマイル・クリーク Seven Mile Creek を渡って、対岸を上流に向けて歩く。リバーベッドが狭くなり、川の両岸が平行になる手前で、右手のバンクに "Access to Kelly Range" のサインポストがあり、トラックが始まる。

山へ入ると鬱蒼とした不気味な雰囲気、両脇を削られた狭い切通しのようなトラックに行く。昔の鉱石採掘場の跡だ。マーカーとして白いブリキのプレートが木に打ちつけてある。一ヶ所、倒木によって分かりにくいところがあった。

展望のきかない単調できつい登りが続く。登りはじめて2時間半ほどで左手が崩落したような絶壁になり、視界が開けてきた。いよいよブッシュ・ラインを越えるのかと思ったらふたたび森林のなかに入ってしまった。森林限界の上に出たのはさらに1時間後だった。ちょっとしたノブ(地形上の突起)があって、そこから出発地点のセブン・マイル・ハットが見え、さらに遠くタズマン海さえ一望できた。

ブッシュ・ラインを越えると背の高い草地で、依然登り続ける。目印のポールが立っているが、ルートはわかりにくく、時に草をかきわけながら進む。

このあたりから地形図上のルートの記載がなくなる。ポールはケリー・レンジ Kelly Range(山脈)上の大小いくつかの池(Tarns)まで続いているが、その先は見当たらなかった。天気が良ければ勘頼りでもハットにたどり着けるかもしれないが、常識的に考えて地図とコンパスは必須だ。レンジをケリー・サドル Kelly Saddle(鞍部)まで行けば、キャロル・ハット Carroll Hut へ続くトラックが見つかる。

キャロル・ハットはひろい台地の草原にぽつりと建つハットで、ロケーションがすばらしい。ただ、ここからSH73沿いにあるトラック・エンド、ケリー・シェルター Kelly Shelter まで1時間半ほどの下りなので、必ずしもここに泊まる必要はない。

5日目 Carroll Hut - Kelly Shelter (SH73) 1時間半

ハットが建つ台状のフラットから急な下りになる。すぐにブッシュラインに入り、ひたすら下っていく。1時間半もすればトイレのあるキャンプグラウンドを経て、State Highway 73(国道73号)に面したケリー・シェルター Kelly Shelter に着く。シェルターは3面を囲われた建物で中にベンチがある。寝袋を広げて寝ることは十分可能。

© Ken AKIBA 1999

秋場 研